

(学校番号037) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【善前小学校】

4月20日		
目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において、3pt向上させる。	⇒ 朝の短時間学習「基礎基本」に毎週、計画的に取り組み基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。授業の中で「ドリルパーク」を積極的に活用し、月に1度児童の習熟を確かめる。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より、国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において、3pt向上させる。	⇒ 「書くこと」の力を身に着けさせるために、インターネットから自分の課題について必要な情報を取り出し、まとめさせることで必要な文章を書く力を身に付けさせる。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的な回答を90%以上にする。	⇒ すべての授業において、児童が話し合い、伝え合う活動を取り入れ、課題解決に向かう場を設定する。また、授業中に必ず、自己の振り返りを行う時間を設定し、互いに考えを共有し合う。

9月1日		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	算数においては、目標に届かなかったため、方策を追加し、さいたま市学習状況調査において、R元年度の平均正答率と比較し、3ptの向上を目指す。国語については、目標を上回ったため、さいたま市学習状況調査において4pt向上へと修正する。	⇒ 授業や宿題で、「ドリルパーク」の積極的な活用を図るとともに、スタディサブリの活用を図る。過去の単元であっても遡り、個人に必要な学習について復習できるよう指導する。
思考・判断・表現	国語・算数において目標に届かなかったため、さいたま市学習状況調査において「思考・判断・表現」をR元年度より2pt向上へと修正する。算数においては、昨年度の調査と比較し「変化と関係」領域が10pt低くなっている。そのため、さいたま市学習状況調査において「変化と関係」領域の平均正答率をR元年度より3pt向上させる。	⇒ 授業では、自分の感想や意見を書く時間を毎時間とるようにし、自分の考えを抵抗感なく書けるよう指導する。ノート、オクリンクのカード、Teamsの課題提出機能を活用し、教員のフィードバックを負担なく行えるように授業改善を行う。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に加えて「授業で学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思えますか。」の質問項目において、肯定的な回答を88%とする。	⇒ 毎時間の授業で、児童が話し合い、伝え合う活動を取り入れ、課題追及に向かう場を設定を引き続き行う。互いの考えを聴きあう方法として、ムーブノートなどを活用し、書き言葉での交流も行う。

8月31日	
全国学力・学習状況調査結果	全国学力・学習状況調査結果・分析
<p>R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語+10.7pt、算数が-4.5ptであった。国語では、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題に課題があり、全国平均を下回った。解答類型を見てみると、正答の条件を満たしていない解答や無回答が多かった。算数では、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる問題に課題があり、割合を一番大きい遊びを選ぶことができない児童の割合や無解答の割合も一定数見られた。</p> <p>R4年度全国学力・学習状況調査の「思考力・判断力・表現力等」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語-1.4pt、算数-10.7ptであった。理科では、全国平均を上回ったものの、国語、算数は全国平均を下回った。国語では、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。無回答率も全国に比べて高い。算数では、「変化と関係」領域が低い結果となった。伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量を求めることができるよう反復学習を重視したい。</p> <p>R4年度全国学力・学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は全国平均を上回ったものの85.6%であった。「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の肯定的な回答は、86.6%であり、全国平均を上回った。より一層子どもたちが自分の考えを伝え合い、自分の考えを深め、広げられるよう、考えの交流の場面を取り入れられるよう授業改善に努めていく。</p>	

2月17日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より、国語+1.5pt、算数-2.1ptであった。国語の主語・述語の関係を理解する問題に課題が見られた。算数では小数の減法の計算のミスが多かった。立方体の構成についての理解が不十分であった。「授業の内容がよく分かる」と答えた児童は、国語・算数ともに市の平均より若干下回るものの約90%と肯定的回答が高かった。	小4	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より、国語-2.5、算数+0.8ptであった。国語の文の中の主語・述語の関係を理解する問題に課題が見られた。算数では、整数倍にあたる二つの数量関係の場面と図を関連付けることに課題が見られた。教科への興味関心については、国語は71%と市の平均を若干下回ったが、算数は、67%と市の平均を上回った。
小5	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より、国語-0.1pt、算数+2.2ptであった。国語では、文の中の主語・述語の関係を理解する問題に課題が見られた。算数では、数と計算で示された場面において、目的にあった処理の仕方を考察することが難しかった。教科への内容理解について国語では95%と市を上回る結果となった。教科への興味関心については、算数、理科は市の平均を下回ったが、社会は82%と市の平均を上回った。	小6	R4年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R元年度調査より、国語+0.7pt、算数+0.3ptであった。国語では、主語・述語の関係を理解する、書くことで伝えたいことを明確にする点について課題が見られた。算数では、目的にあった数の処理の仕方について考察が難しかった。教科への関心については、国語について市の平均を下回ったが、算数・社会・理科については市の平均を上回った。理科については、6%市の平均を上回った。

2月17日		
成果指標に対する達成状況	評価(※)	
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査により、国語+10.7pt、算数-4.5ptであり、国語は全国平均を上回ったが、算数は全国平均を下回った。R4年度さいたま市学習状況調査国語「知識・技能」においてR元年度調査より小3+1.5pt、小4-2.5pt、小5-0.1pt、小6+0.7pt、算数「知識・技能」において、小3-2.1pt、小4+0.8pt、小5+2.2pt、小6+0.3ptであった。	B
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査より、国語-1.4pt算数-10.7ptであった。R4さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R元年度調査より、国語-3pt算数+0.1ptであった。4年生国語は元年度7pt上回り、6年生国語も4.4pt上回った。	C
主体的に学習に取り組む態度	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、R4年度全国学力・学習状況調査では肯定的な回答の割合は、85.6%であったが、R4年度さいたま市学習状況調査では、91%であった。R4年度さいたま市学習状況調査の「観察や実験を行うことは好きですか」94%で、友達と関わりながら意欲をもって学習に取り組めた。	A

3月3日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語については、どの学年においても「主語・述語の関係を理解する問題」に課題が見られたため、言葉の特徴や使い方に関する事項を全学年で基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要がある。個人差が大きいことから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に生かす方法を検討するとともに、朝学習の時間を計画的に行い、理解できるようになるまで反復学習に取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	算数「数と計算」の領域では、どの学年も正答率が低い傾向が見られた。3学年では、小数の計算に課題が見られた。4年生では、整数倍にあたる二つの数量関係の場面と図を関連付けることに課題が見られた。5・6年生では、示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察することについて課題が見られた。単純な計算問題ではなく、場面や数量の関係から必要な数の処理を行えるようにする必要がある。授業において、場面と数量の関係を絵、図、グラフなどを用いて、しっかり問題を把握することができるように授業改善を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどちらの学年も90%以上を維持していきたい。そのために、全学年において、友達と学び合う場を授業中に設定し、主体的に学習に取り組む姿勢を育てていく。自分達で学習を進められるよう教師の支援の在り方について、研究を深めて進めていく。

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)